

平成29年産米の報告

平成29年産米の集荷・買取数量 **33,174袋 995.22トン** (11月15日現在)

平成30年産米への課題

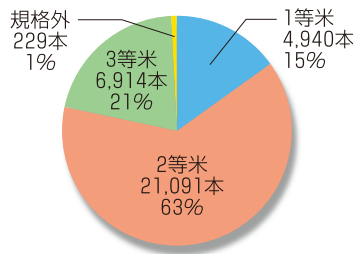
班点米カメムシ類

スタークル粒剤や**トレボン粉剤D**などの薬剤散布だけでなく水田周辺や水田内の雑草管理も行い、地域全体で取り組みましょう。

青未熟粒

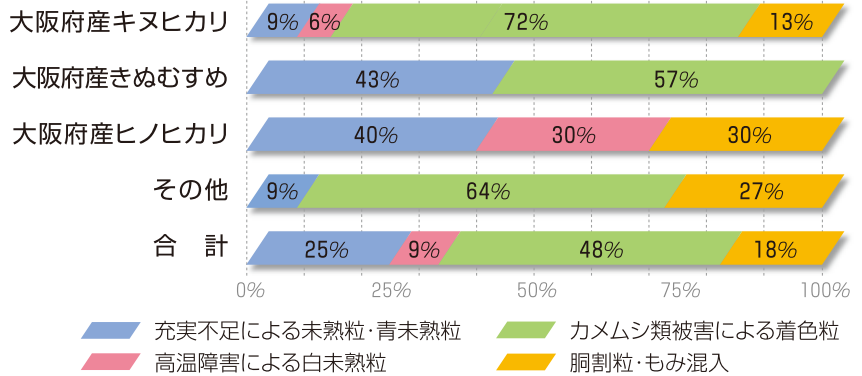
発生要因として登熟期の水分不足、生育後半の肥切れ、早刈、登熟期の低温があげられます。対策として、水管理の徹底(間断かんがいの徹底、早期落水防止)適期収穫に努めましょう。

検査数量の割合 (30kg/本)



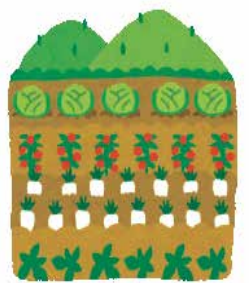
平成29年産米のJA買取袋数は昨年度よりも429本増加しました。等級割合は左図の通りですが、前年度対比1等米は4.5%、2等米は4.7%減少し、3等米は9.2%増加しました。等級落ちの要因として班点米カメムシと青未熟粒の割合が高かったことから左記のとおり対策を行いました。

2等米以下に格付けされた理由の割合



野菜の年間栽培計画を立てよう!

2018年新春!今年は何の野菜をつくろうか、栽培計画を立てるのがたのしい時期です!!
農作業がひと段落するこの機会に年間栽培計画を立てましょう。



① 第一の対策は輪作

連作障害を防ぐのに有効な手段が輪作です。輪作プランをつくりましょう。プランの作り方を紹介します。

ノートなどに農園の絵を描き、4〜5区画に分けます。次に貼り直しができる付箋紙に野菜名と科名、おおまかな栽培期間などを書き込みます。この付箋を貼ったりはがしたりしながら、連作にならないように組み合わせをつくっていきます。コツは毎年1区画に同じ科の野菜をまとめることです。毎年この区画を移動させれば自然と4〜5年の輪作になります。

② 良質な有機物を入れた土づくりをする

作付け前には完熟堆肥などの有機物をたっぷり施し、有用な微生物が働くような土づくりをしましょう。



土の湿りの程度と適する作物	光の強弱と適する作物	輪作期間と作物	同じ科目の作物
湿 サトイモ・ミツバ・ゴボウ・イチゴなど	強 キュウリ・カボチャ・スイカ・ナス・トマト・ピーマン・インゲン・サツマイモ・ジャガイモ・ダイコン・ニンジンなど	4年以上 トマト・ナス・ピーマン・ゴボウ・ジャガイモ・エダマメなど 3年以上 ウリ類・ソラマメ・サトイモ・インゲンなど 2年以上 キュウリ・ハクサイ・キャベツ・イチゴなど 1年以上 ホウレンソウ・シュンギク・ネギ・レタス・セルリーなど 連作しても害が少ない ダイコン・ニンジン・カブ・タマネギ・コマツナなど	ナス科 ジャガイモ・トウガラシ・トマト・ナス・ピーマンなど ウリ科 キュウリ・シロウリ・スイカ・メロンなど アブラナ科 カリフラワー・キャベツ・ハクサイ・ブロッコリー・ダイコンなど マメ科 エンドウ・ソラマメ・インゲンなど
中 ナス・キュウリ・エンドウ・タマネギ・ニンジン・シュンギク・ホウレンソウ・コマツナなど	中 イチゴ・ネギ・タマネギ・レタス・コマツナ・ホウレンソウ・ハクサイ・キャベツ・サトイモなど		
乾 インゲン・トマト・スイカ・カボチャ・サツマイモ・キャベツなど	日陰 ミツバ・フキ・ショウガ・ニラなど		